

第4学年の取り組み

(1) 実践内容 ふるさと菟目寺「環境にやさしい町づくり～われら環境調査隊～」

① はじめに

4年生は、年間を通して環境をテーマに総合学習を進めている。1学期から総合学習発表会に向けて、いろいろな出前授業や調べ学習を行い、地球規模での環境や、身の回りの環境に目を向け学習を進めてきた。自分の発表に必要な事柄を集め準備をすることは、年を追うごとにうまくなってきている。しかし、発表する様子を見ていると、低学年から指導されてきた、「大きな声で」「はっきりと」などは意識はしてるが、自分の考えを人に伝えるために、この他に何か工夫しているかという点、あまり工夫していないのが実態である。

そこで、聞き手を引きつける発表を身につければ、発表会がさらに充実すると考え、国語科を中心とした各教科での取組を行った。

② 「知ったこと・考えたことを発信しよう」

ア 特別活動「ほめことばのシャワー」

朝の会で、選ばれた児童を一日観察し、その様子を帰りの会で発表する。自分の一番伝えたいことを聞き手に伝わるように話さなければならない。また、聞き手も、共感するためにはしっかり話を聞かなければならない。したがって「話す・聞く」能力を伸ばす手立てになった。

イ 国語科「よりよい話し合いをしよう」

互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合う力、司会や提案などの役割を果たす力、進行に沿って話し合う力を養うことができた。

ウ 総合的な学習の時間

「環境」という言葉は知っていても、自分たちとのかかわりがどういうものか、地域と環境との結びつきがどのようなものなのか、具体的にとらえることができていなかった。そこで、身の回りの環境に興味関心をもたせるために5つの出前授業を行った。

これらの活動を通して、まずは、環境に興味をもち、調べてみようと思うことができた。さらに、活動を通して、要点をおさえてしっかり聞くことや、分からないことや疑問に思ったことを聞くという力を養うことができた。

(ア)「五条川工場見学」

ゴミの処理方法、ゴミの分別について学んだ。

(イ)「東邦ガス出前授業」

できるだけ二酸化炭素を出さない調理方法を知り、省エネの工夫を学習した。

(ウ)「中部電力出前授業」

エネルギー資源と地球温暖化を学習し、温暖化を防止する方法を考えた。

(エ)「ユニーグループ出前授業」

環境にやさしい商品や使い終わった容器などを使った工作を通して、地球にやさしい買い物を学んだ。

(オ)「ストップ温暖化出前授業」

温暖化について学び、日常生活の中でできることを考えた。



【東邦ガス】



【中部電力】



【ユニーグループ】



【ストップ温暖化】

エ 国語科「新聞を作ろう」総合「中日新聞出前授業」

国語科にある「新聞を作ろう」を総合の「中日新聞の出前授業」と連携させて取り組んだ。中日新聞の方に来ていただいて、授業を受けたことで、新聞のまとめかたのポイントが分かり、自分の伝えたいことを発信する方法を学ぶことができた。そのため、読者の興味を引く新聞作りを行うことができた。



【新聞作り】

オ 総合的な学習の時間 環境教育プログラム

「川を汚したのは誰だ」

人間の暮らしが川にダメージを与えている模擬実験を通して、何気ない行動が環境に与える影響を体験した。

「水の旅」

地球上の水の循環についての活動を通して、水がいかに貴重なものかを学んだ。

「ゴミ拾い競争」

これまで人間がゴミをどのように扱ってきたかを振り返り、これからの自分たちはどうすべきなのかを考えた。

今年は、3つのプログラムのうち2つのプログラムを受講した。どのプログラムも、環境について学びやすい工夫がされていて、楽しく活動することができた。また、これから学んだことは、発表会でも活用することができた。



【ゴミ拾い競争】

カ 国語科「だれもが関わり合えるように」(③に詳細を記述)

4年生は、高学年に向けて思考力・表現力をさらに充実させたい時期である。この単位では、総合的な学習の時間をはじめ、他教科につながる課題解決学習の基本を身につけることができた。

キ 総合的な学習の時間「ミニ発表会」

1学期出前授業で学習したことや夏休みに調べたことを整理して発表した。友達の発表を聞いて、発表の仕方、発表の内容の両面から質問をしたり、感想を伝えたりすることができた。

ク 総合的な学習の時間「総合学習発表会」

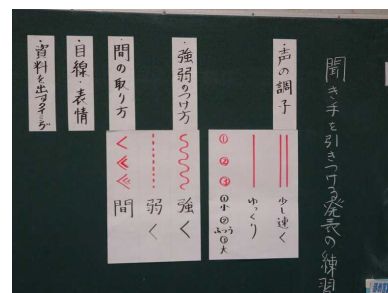
自分が何を発表会で伝えたいのかを明確にし、テーマごとに発表を行った。聞く人によく伝わるように発表の仕方を工夫し取り組むことができた。

③ ESD国語科 単元「だれもが関わり合えるように」本時(14/15)

ア 導入の様子

音読記号として何を取り上げるかが、この授業のポイントとなると考え、本時では、「声の調子」「声の強弱」「間の取り方」「目線・表情」を取り上げた。

前時では、音読記号のつけ方をもう一度確かめ、原稿用紙に書き入れていく作業をし、個人練習およびグループでの発表の聞き合いを行った。意見に制約は設けずに互いにアドバイスをし合った。また、「よかったところ」「工夫するとよいところ」を2色の付箋を使って分けたことで、何についての意見なのか視覚的にも分かりやすくなり、聞き手の意見が発表者によく伝わった。



【音読記号】

本時の導入では、前時までのグループでの話し合いを生かし、全体での発表の場を設けた。めあての視点である、強弱のつけ方や間の取り方について、積極的に意見を出し合った。強弱のつけ方については、「きちんと強弱がつけられている」や「差が大きい」「声の大きさに気を付けている」などの意見が出された。また、間の取り方については、「場所にあった取り方をしていた」「図や表を見せるときには長めにとるとよい」「名前、言葉は一つ一つ分かりやすく」などの意見が出た。そして、何についてどう改善したらよくなるのかを子どもたちの発言から

まとめていった。

イ 展開の様子

展開の段階では、2度目のグループ発表に向け、全体の話し合いの場に出された意見のうち、自分に必要な事柄や、グループでの話し合いの場で友達から言われたアドバイスを頭に置き、2度目の個人練習を行った。

個人練習では、全体での話し合いの結果、児童は間を取ることの大切さに気づいたようで、練習後にもう一度原稿の音読記号について見直しを行い、赤で訂正を入れた児童が多かった。

2度目のグループ発表では、前時のグループでのアドバイス、全体での話し合いを受け、個人練習での改善点を相手に分かるように話さなければならないので、話し手も聞き手も意欲的に取り組んでいた。

今回のグループ発表では、良くなったところを中心に意見の交換を行った。評価を〇◎とすることで聞き手も聞く観点が明確化でき、意見が言いやすくなった。

ウ 終末の様子と児童の感想

最後に本時を振り返っての感想を書いた。「アドバイスがもらえて、上手に話せるようになりました」や「◎がもらえてよかった」という発表スキルの向上に関する感想や、「最初に発表したときより、うまく発表できた」「人の前で発表するのが好きになりました」「今回やったことを5・6年生でも使って発表していきたい」など、今後の発表の場での自信につながる感想を多くの児童が書いていた。また、今回グループでの話し合いにおいて、友達の意見を聞き、発表に生かすことができたことで、「きずなが深まった」や「自分のいいところや悪いところがあった」「アドバイスを取り入れて直したことで文章がよかった」など、話し合いのよさを児童が体験できた。

④ その後の活動

今後、これまでの国語科での学習や今回の授業で培ってきたことを生かして発表する場として、自分の調べてきたことを発表する「ミニ発表会」、総合のメインの発表の場「総合学習発表会」、ドリームマップ制作時の発表、二分の一成人式での個人発表と4回の場が設けられている。

直後に行われた「ミニ発表会」では、これまでの発表では、あまりやれていなかった「間をとる」「声に強弱をつける」ということを多くの児童が行い、自分の伝えたいことや重要な事柄について聞き手にアピールできていた。どの発表の場でも今回学習した内容を生かすことができれば、きっと聞く人にも伝えたいことがきちんと伝わると考える。

(2) 実践の成果と課題

新聞作りで学習した「見出し」「リード文」「写真やイラスト」といったことは、ドリームマップの作成で生かすことができた。文字の大小や写真・イラストの配置などそれぞれが工夫してドリームマップを完成することができた。

音読記号を取り入れたことで、「ミニ発表会」や「総合学習発表会」の原稿においても、児童は積極的に音読記号を書き入れ、よりよい発表になるように心掛けていた。このように国語科とE S Dを連携させることは、効果が得られやすいと考えられる。

今回の授業研究では、2時間続きの実践を行ったが、指導案の書き方にもっと工夫が必要なのことが分かった。



【個人練習】



【総合学習発表会】